❖ 眠れる霊的センター――「チャクラ」

◉――チャクラとは？

次に、チャクラの教えに移っていくことにしよう。

チャクラとは、人間の身体にある霊的なセンターで、だれでもそれぞれの場所に持っている。しかし、普通の人はそれが眠った状態で働いていない。前述したクンダリニーの上昇とともに、開発されていくものなのである。

主なものは次の七つである（※各チャクラに関係する項目も、併せて記しておく）。

(1) ムーラダーラ・チャクラ

【場所】尾てい骨
【形】逆三角形
【色】暗い赤色
【内分泌腺】副腎

【対応する感覚】嗅覚（きゅうかく）
【対応する世界】地獄界（激苦地獄（げきくじごく））
【対応する元素】地元素（ちげんそ）

(2) スヴァディスターナ・チャクラ

【場所】性器の根本、へそ下三センチ
【形】八枚の花弁（かべん）（花びらのようなもの）があり、花弁の中心には半月形が見える。絶えず振動している
【色】オレンジ
【内分泌腺】生殖腺（せいしょくせん）
【対応する感覚】味覚
【対応する世界】動物界
【対応する元素】水元素（すいげんそ）

(3) マニプーラ・チャクラ

【場所】へそ

【形】四角形
【色】輝くような藍色
【内分泌腺】膵臓
【対応する感覚】視覚
【対応する世界】餓鬼界（低級霊域）
【対応する元素】火元素

(4) アナハタ・チャクラ

【場所】胸に三つ（右乳頭、左乳頭、左右の乳頭を結ぶ線と正中線が交わる点）
（左乳頭）【形】十二弁を持った六角形【色】黄金色
（正中線上）【形】十枚の花弁を持った五角形【色】スカイブルー
（右乳頭）【形】花弁を持たない円【色】深紅
【内分泌腺】胸腺
【対応する感覚】触覚
【対応する世界】人間界
【対応する元素】風元素

(5) ヴィシュッダ・チャクラ

【場所】喉
【形】十六枚の花弁を持っている円形
【色】灰色
【内分泌腺】甲状腺
【対応する感覚】聴覚
【対応する世界】阿修羅界（意識堕落天）
【対応する元素】空元素

(6) アージュニァー・チャクラ

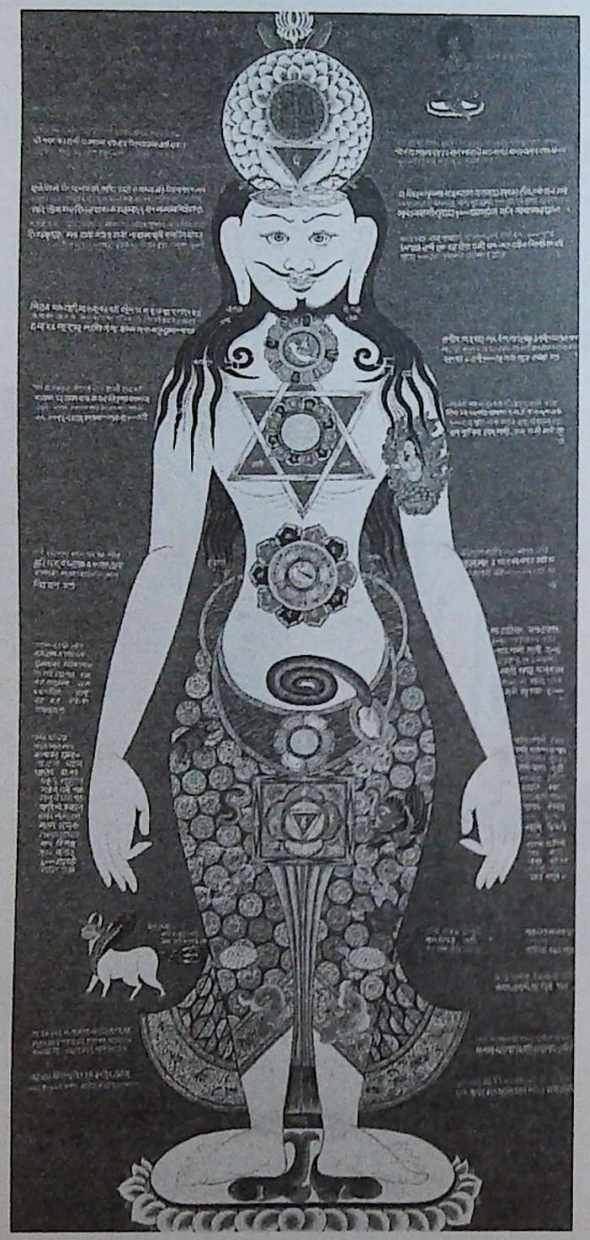
【場所】眉間
【形】長円形。花弁は大きく分けて二枚であり、それぞれが四十八枚に細分化されている。
【色】白銀
【内分泌腺】脳下垂体
【対応する世界】天界（戯れ堕落天）

(7) サハスラーラ・チャクラ

【場所】大脳中央
【形】球状
【色】薄いブルーの入った白銀
【内分泌腺】松果体（しょうかたい）

マニプーラ・チャクラとアナハタ・チャクラの間にチャンドラ・チャクラとスーリヤ・チャクラがあるが、この二つは、上記の七つのチャクラに比べると五分の一程度の大きさしかない（※チャクラ図は口絵参照）。

また、チャクラは身体の下部に位置するものに比べ、上部へ行くほど次元が高くなっているのである。



コラム Column

古今東西の記録に残るチャクラ

これらの図を見ていただきたい。それぞれの絵が描かれた場所や時期、描いた人物が全く異なっている。

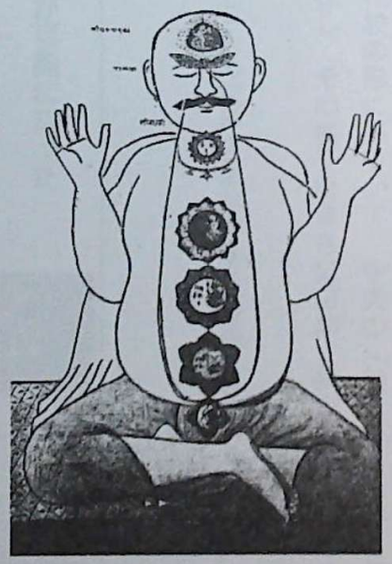
ところが――先程のクンダリニーと同じく――医学的、解剖学的、生理学的には存在しないはずのものが、古今東西の絵に共通して描き残されているのだ。

ここに描かれた「人体に存在するセンター」こそが、チャクラである。もしチャクラが幻だとしたら、描かれた時代も地域も全く違うこれらの図に、共通して描かれるはずがない。

これは、チャクラが霊視すれば見えるものであり、紛れもなく万人の体に存在していることを表わしているのである。

フランス（18世紀）：天体がチャクラと関係付けられている

ネパール（17世紀）



インド（19世紀）：人体中のチャクラとナーディー

ネパール（20世紀）：死者を来世に送り出すときに使用されたといわれているもの

◉――チャクラとは「光のスポーク」の意

昨今のスピリチュアル・ブームにより、「チャクラ」という言葉が一般的になってきた感があるが、そもそもこの名称は、「スポーク（車輪の輻）」という意味のサンスクリット語に由来している。

中心のエネルギー・センターから外側に向かっている光の筋の様子を、いにしえの聖者方が透視し、それによって「チャクラ」と名付けた。

つまり、肉眼では見えないが、アージュニァー・チャクラの位置に存在している〝第三の目〟を開発するなら、これらチャクラの位置やその形状・色等について、はっきりと知覚できるのである。

《体験談》チャクラの花弁の振動までハッキリ見える　（Mさん　出家者）

一九八六年に集中セミナーに参加したときのことです。

マントラ瞑想のとき、目を閉じてグルの発するマントラに意識を集中し、一緒にマントラを唱えていると、突然真っ暗な視界の中央に、明るく光るチャクラが現われました。

その形はちょうど皇室の菊花紋（きっかもん）の形に似ていて、中央の「円」から伸びる花弁の端までの間にもう一重だったか二重の輪が存在し、その様子はまさに以前、何かの本で見たチャクラの絵そのものでした

しかもよく見ると、そのチャクラの花弁全体が非常に微細に震えているといった細部に至るまで、はっきりとわかったのです

《体験談》チャクラの霊視が可能になった

アヴェッチャパサーダ
ヴァンティー師　成就者

入会後、一カ月も経たないうちに、チャクラが霊視できるようになりました。自分のアージュニァー・チャクラの辺りに意識を集中すると、見えるのです。

そのときは、毎日浄化法をしていたのですが、そのときに急に「何か」が見えてきたので、「あれ、何だろう？これってチャクラと言われているものでは？」と思い、後で調べてみました。

すると、本に載っているものと色や形が同じだったので、「なるほど。これがチャクラなんだな」と確信したのです。

コラム Column

“チャクラの存在”が実験によって明らかに！

チャクラは、肉眼で見ることはできない。よって、「本当にそんなものが存在するのだろうか？」と思う人もいるだろう。

そこで、チャクラの存在を科学的に検証しようとしてなされた、「温度変化をとらえる実験」と「電場をとらえる実験」の、二つを紹介したい。

○温度変化をとらえる実験

クンダリニー・ヨーガおよびラージャ・ヨーガの成就者（※クンダリニー・ヨーガの方が上位に来るヨーガ。詳しくは後述。ここでは相当に修行の進んでいる人とお考えいただきたい）、および非成就者（※修行の進んでいない人）の両者に対して、「白金測温抵抗体」をアージュニァー・チャクラが存在するとされる眉間に張り、そこに精神集中することで、その部位の温度変化を測定した。

修行が進んでいる人は、精神集中によって霊的エネルギーを動かすことができる。一方、チャクラは霊的エネルギーの中心（センター）である。

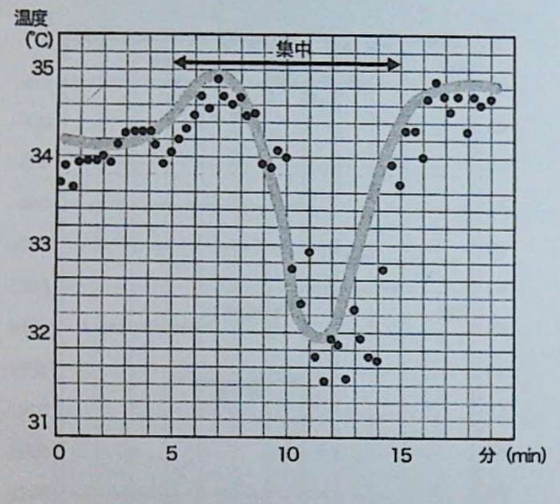
したがって、そこに精神を集中し、エネルギーを集中させることによって、何らかの変化が見られるのではないか、というわけだ。

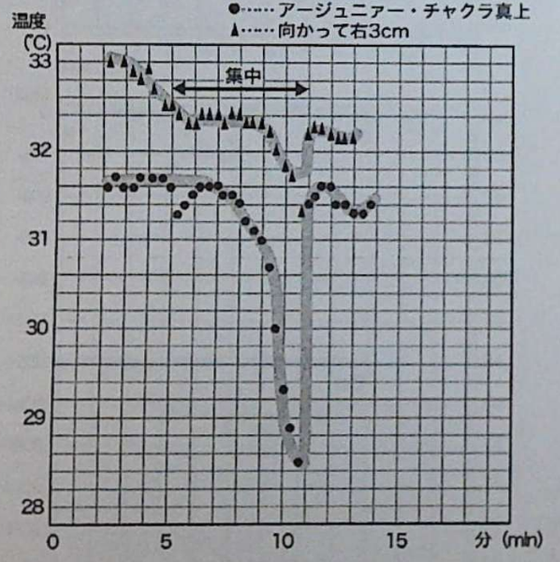
なお、精神集中する部位を眉間にしたのは、額には筋肉が少ないため、測定の際、筋肉から出る発熱量を少なくすることができるということがあった。

被験者には、

①最初の五分間は集中しない
②次の十分間は眉間に精神を集中する
③最後の五分間は集中しない

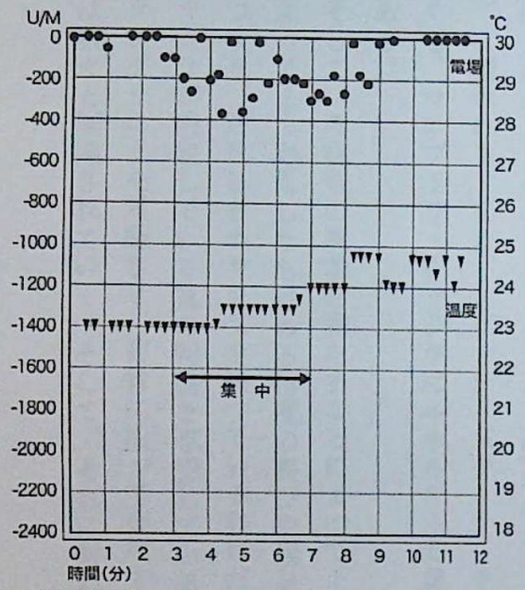
というやり方で精神集中をしてもらった。

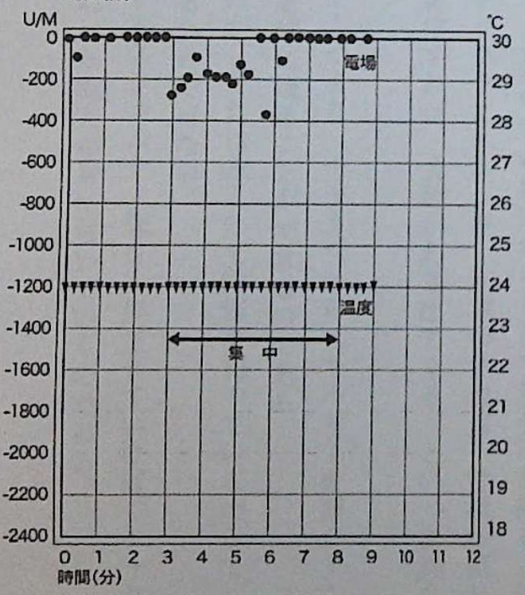




〈グラフ1〉
成就者の場合。約3度もの温度低下が見られた

さて、実験の結果だが、グラフ1・2にあるように、成就者の場合は顕著な温度低下が見られたが、非成就者の場合には、目立った変化は見られなかった。





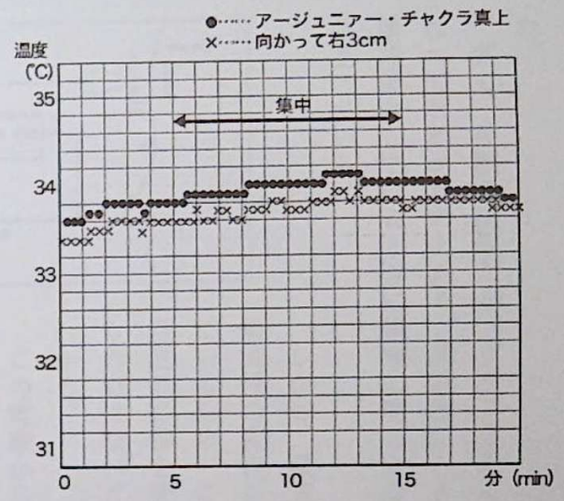
〈グラフ3〉
二人とも、電場に変化（負の電荷）が生じたことがわかる

そして、被験者には、

①最初の三分間は集中しない
②次の五分間は眉間に精神を集中する
③最後の三分間は集中しない

というやり方で眉間に精神集中をしてもらい、電場の変化を計測した。

なお、この電場の変化がセンサーの温度変化によるものではないことを確かめるため、センサー部分の温度も同時に測ったところ、電場の変化を計測した。



〈グラフ2〉
非成就者の場合。著しい温度変化は見られない

これは、眉間の位置にチャクラが存在していることの、傍証が得られたと言えるだろう。しかも、そのチャクラは、修行が進むことによって活性化させることができる、ということもわかる。

ちなみに、成就者のタイプによっては、〝温度低下〟ではなく〝温度上昇〟が見られる場合もある。

○電場をとらえる実験

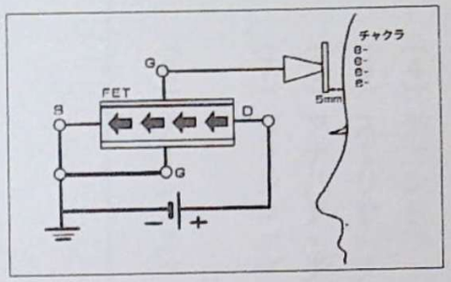
修行の進んでいる人は、チャクラに集中することで、その部位がしびれる感覚を覚えることがある。

この感覚は、当然神経を介したものであるから、そこに何らかの電気的な現象が起こっている可能性がある。次の実験は、その電場の変化を科学的にとらえようというものだ。

同じくクンダリニー・ヨーガおよびラージャ・ヨーガの成就者に対し、アージュニアー・チャクラの前方五ミリのところに、電場を感知するセンサーを設置する。

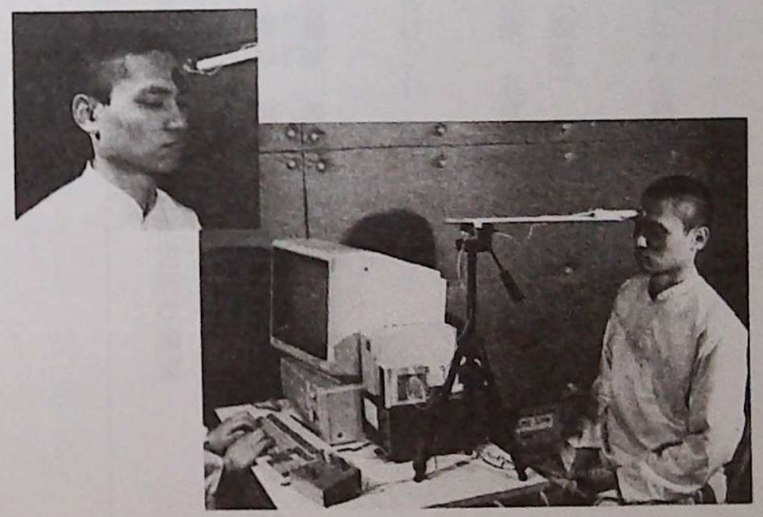
た。

さて、実験の結果だが、グラフ3をご覧になっておわかりのとおり、成就者二人とも、精神集中しているときに電場に明らかな変化が生じている。



しかも、温度とは無関係の変化になっているため、これが温度の影響を受けたものではないことがわかる。

この実験からも、眉間の位置にチャクラが存在していることがうかがえるのである。



電場をとらえる実験の様子

◉――通常は煩悩的な心の働きを司っている

先程、チャクラは、普通の人の場合は眠った状態で働いていないと言った。

これは、チャクラに秘められた様々な能力が開花していないという意味であって、これらのチャクラは、通常は、わたしたちの煩悩的な心の働きと深く関係している。

例えば、ムーラダーラ・チャクラにエネルギーが集中すれば、わたしたちの心は邪悪心（嫌悪）に覆われる。また、スヴァディスターナ・チャクラにエネルギーが集中すれば、性欲が高じてくる。マニプーラ・チャクラにエネルギーが集中すれば、食欲がわき出てくる、といった具合である。

そして、それらの欲求を満たすことによって――つまり、チャクラからエネルギーを漏らすことによって――わたしたちはある程度の喜びや満足感に浸ることができるのである。

つまり、だれしもチャクラを持っているわけだが、それは主として煩悩を司っているのみで、チャクラが内包している真の利益を享受しているわけではない。

クンダリニーを覚醒させ、背骨に沿って存在するスシュムナー管を上昇させていけば、チャクラは次々と開発されていく。そして、それに対応した能力が身に付いていくのである。

◆各チャクラが司っている主な煩悩（けがれた心の要素）

（1）ムーラダーラ・チャクラ……邪悪心（嫌悪）
（2）スヴァディスターナ・チャクラ……性欲、怠惰、睡眠欲、身内に対する情
（3）マニプーラ・チャクラ……食欲、貪り
（4）チャンドラ・チャクラ……イメージのけがれ
（5）スーリヤ・チャクラ……怒り
（6）アナハタ・チャクラ……プライド、名誉欲、卑屈、異性に対する愛着
（7）ヴィシュッダ・チャクラ……闘争心、害心（がいしん）、嫉妬心（しっとしん）、地位・権力に対するとらわれ
（8）アージュニァー・チャクラ……慢、支配欲、あらゆる現世的な願望

《体験談》チャクラの存在を実感

その時々の自分の心の働きや、接しているデータに対応したチャクラの位置に何らかの感覚が生じますので、チャクラの存在はよくわかります。

例えば、嫉妬をすれば喉（ヴィシュッダ・チャクラ）が痛くなりますし、冷たくされると胸（アナハタ・チャクラ）が痛くなります。

また、物が欲しくなるとおなか（マニプーラ・チャクラ）がむずむずしますし、性的なデータが入ると腰のところ（スヴァディスターナ・チャクラ）で詰まりが生じます。

また、怒ると尾てい骨（ムーラダーラ・チャクラ）や会陰がむずむずします。

（Yさん　男性）

❖ チャクラ開発で目覚める潜在能力――この世が思いのままに

◉――チャクラは「意識のフロア」

クンダリニーが覚醒すると、強烈な熱エネルギーが生じ、それが中央のスシュムナー管を浄化しながら上昇していく。そして、各チャクラを貫いていく段階で、それぞれのチャクラが目覚め始めるのである。

そのときに、わたしたちの意識状態はどんどん変化していく。これは、その段階段階で、各チャクラが司っている意識状態が表面化するからである。そして、そのときの意識状態に応じた各能力（現世的能力や霊的能力）も自然と身に付いていく。

つまり、わかりやすく言えば、上位のチャクラにエネルギーが到達すればするほど、わたしたちは、より高等な生命体へと至っていくというわけだ。

そういう意味で、チャクラとは「意識のフロア」であり、霊的進化イコール意識の進化と言えるのである。

◉――各チャクラが司る潜在能力

では、チャクラの開発で具体的にどのような能力が身に付くのだろうか。

まず注目されるのは、現世的に大いに役立つ能力がいろいろと身に付いていく、という点だ。

それについてまとめると、以下のようになる。

（1）ムーラダーラ・チャクラ

ムーラダーラ・チャクラが開発されると、肉体が強化される。健康になり、気力や体力が充実し、エネルギッシュになる。また、睡眠が少しぐらい不足しても平気になり、疲労しても短時間で回復するようになる。

ここでいう健康とは、機能的な状態を回復させる働きが増大するということである。体温が上昇して超健康体になり、肉体的疲労や外的条件による病がなくなるのだ。その原理としては、

一、体温を上昇させることにより、肉体内の抗原抗体反応を促進する

二、それ以上の体温上昇により、癌やウイルス性疾患におけるウイルス等を生存させなくする

といった働きによるものだ。

この世で成功を収めようと思うなら、まずは健康な肉体づくりから始めなければならない。ムーラダーラ・チャクラが開発されれば、病気に悩んでいる人には健康体が、受験生には睡眠時間の短縮が、忙しいサラリーマンにはどんなストレスにも負けない強靭な肉体が、与えられるのである。

《体験談》車が大破しても、かすり傷ひとつなし

（Aさん　出家者）

「クンダリニーが覚醒すると、強靭な肉体や健康体などを得る」とは、以前から聞いていました。確かにわたしも、修行を始める前と比べると疲れにくくはなりましたが、「誤って高いところから落下しても、たとえ大事故が起きても、かすり傷一つないほどの〝強靭な肉体〟」などと聞いても、「そんなにすごいものなのか」と、人ごとのように感じていました。

そんなある日、急ぎの用事が入り、至急運転することになりました。

「体が何だか重いな」と感じていたこと、初めて通る道だったこと、雨で前が見にくかったことなど、いくつか悪条件が重なっていたので、いつも以上に注意していたつもりだったのですが、ハッと気が付いたときにはもう遅く、車は大破。

しかし、ひざを少し打ったという感覚はあったのですが、本当にかすり傷ひとつなかったのです。

(2) スヴァディスターナ・チャクラ

このチャクラは性器と関係あるため、開発されると性欲をコントロールできるようになるとともに、多くの異性から愛情を持たれるようになる。

また、情緒が発達し、詩的センスが向上して、詩や曲を作る才能が高まる。

ゴーピ・クリシュナは、クンダリニーが覚醒したのちに、十カ国語で、謎めいた詩を泉のように作り出す力を得ている。その中には彼が全く知らない言語さえ使われていたというのだから、驚きだ。

二十世紀最大のインドの神秘哲学者、シュリ・オーロビンドも、一日二百行だった作詩能力が、三十分で二百行にアップしたという。

男性は男性ホルモンの働きで男性的になり、筋力が増大する。女性は女性ホルモンの働きで女性的になる。

もっとも、ただ単にもてるようになるだけではない。禁欲が容易になるため、性的快楽に使用されていたエネルギーが、体全体に回って生命活動が活発になり、短眠も可能。ものすごいバイタリティーを有することになる。

《体験談》自然と睡眠時間が短くなっていった

（大阪　Tさん　女性　四十代）

修行をする以前は睡眠が大好きで、寝ることが至上の幸福と思い込んでいましたので、平日は七時間以上、休日は十二時間ぐらい寝ていて、それに幸せを感じていました。

ところが、最近は、平均四・五～五時間くらいになり、仕事中も意識ははっきりして眠くなりません。また、寝るよりも修行した方が調子が良く、「かえって寝ない方がナーディーが詰まらないし、エネルギーも下がらないからすごくいい」と思えるようになりました。

無理に短くしたわけではなく、修行が進むにつれて自然とそうなっていきました。

《体験談》職場の男性全員から告白された

（大阪　Iさん　女性　三十代）

以前、周りが男性ばかりの職場で働いていたとき、まさに逆ハーレム状態で、わたしの意識は下がり、スヴァディスターナ・チャクラに集中していました。

なぜそれがわかるかというと、ちょうどその部位に痛みが走る感じがあったからです。

「スヴァディスターナ・チャクラに意識が集中し、そこからエネルギーが漏れると、異性にもてるようになる」といったことがグルのご著書に書かれてあったのですが、当時、実際に、同じ職場の

部署で働いていた男性全員から告白される、という出来事がありました。

教えどおりでびっくりしたのと同時に、ちょっと複雑な気持ちになりました。

(3) マニプーラ・チャクラ

このチャクラが開発されてくると、学問・才能の面で非常に優れるようになる。

それは、太陽神経叢（たいようしんけいそう）の働きが活発化し、食物などの消化や吸収が促進されるからである。その結果、肉体全体の栄養状態が改善され、大脳の働きが良くなるのである。

こうして、思索力、判断力、記憶力、推理力などが高まっていく。

事実、これまで平均的な成績しか取れなかった学生が、いきなりトップクラスに躍り出たという実例がある。

さらに、強固な意志の力が身に付き、念力を獲得できるようにもなる。

学問・才能に恵まれず悩んでいる方、そして、意志が弱くて何をやっても成功しない方には、ぜひこのチャクラを開発していただきたい。

《体験談》日本神経学会の認定医試験に合格

メッターヴェッジャ師
成就者

入会して間もないころ、ある大学病院に医師として勤務していましたが、忙しくて修行の時間があまり取れませんでした。

それでもっと修行したいと思っていたら、数カ月後には他の公立病院へ移ることができました。夕方五時には帰宅でき、当直が少ない割には給料もよく、修行の時間がたっぷり取れるようになりました。

おまけに、病院のあるところは、標高四百メートルぐらいの山の中で、ブラーナ（※エネルギーの一種）が多く、修行にもってこいの空間でした。

そこでの生活は、修行とバクティが中心で、医師としての勉強は最小限しかしていませんでしたが、患者さんにはわたしの診察を受けると体が楽になるという人が多く、他のスタッフからも信頼されていたと思います。

そして、集中力、記憶力、直感力も抜群になり、わずか一カ月の準備期間で、先輩の医師の指導がなければ合格は難しいとされている、日本神経学会の認定医試験に合格しました。

これも、修行によりマニプーラ・チャクラが活性化してきたことで、潜在的な能力が百パーセント生かせるようになったからだと思います。

(4) アナハタ・チャクラ

このチャクラが開発されると、誉れ・名誉が手に入る。さらに、高貴さが身に付くようになる。というのも、このチャクラは、物質世界を超越した高位の世界へと通じているからだ。

名誉を得て、気品のある魅力的な人物になりたければ、このチャクラを開発することだ。

(5) ヴィシュッダ・チャクラ

このチャクラが開発されると、大変雄弁になり、この世界で高い地位や権力を手にすることができるようになる。要するに、高位高官に昇るようになるわけだ。

また、宇宙の実相、つまり宇宙の実体についての認識を深めることにより、オーソドックスなこの宇宙の法則の原因と結果について、理解できるようになる。

さらに、このチャクラが開発されると、異次元の世界であるアストラル世界の音楽を聞くことが可能になり、名作曲家への道も夢ではなくなる。

(6) アージュニァー・チャクラ

このチャクラが開発されると、わたしたちは、この世の願望をすべてかなえることができるようになる。

これは、このアージュニァー・チャクラが存在している脳下垂体に、体全体をコントロールするという働きがあり、この自分の肉体に対するコントロールのオーダーを他に振り向けることによって、すべての現象を動かすことができる、ということなのである。

(7) サハスラーラ・チャクラ

このチャクラは、修行の最終目標である「解脱」に関する至高のチャクラである。そのため、チャクラとは呼ばない場合もある。

ここに至ると、もはや現実的な才能云々というレベルをはるかに超越しているため、詳しい解説は次章に譲りたい。

◉——夢のようだが夢ではない——それがチャクラの力

一般の人の中にも——もちろんほんの一握りにすぎないが——ここでご紹介したような能力を

持ち、現世生活を悠々自適に送っている人たちは存在する。

彼らは、本人の自覚はないにしても、何らかの形でクンダリニーが覚醒し、これらチャクラの開発が進んでいる可能性は高い。世にいう偉人や哲人もそうである。

ここまで見てきて、チャクラが開発されると、まるで夢のような能力や才能がわき出てくることが、おわかりいただけたのではないだろうか。

夢のようだが決して夢ではない——それがチャクラの力なのだ。

——彼は確かに神性の一端を得たのであり、その体験は彼の残りの生涯を通して、彼の存在性のあらゆるレベルに影響を与え続けることになる。またこの体験の結果として、これまで隠れていたたくさんの能力が目醒めてくる。

そしてこのような弟子は、活動的で、創造的で、人生のあらゆる面で能力を発揮するようになる。彼は精神的にも道徳的にも、そして知力の上でも向上する。（スワミ・ラーマ）

（ジョン・ホワイト著『クンダリニーとは何か』（めるくまーる社）より）

コラム Column

「チャクラが開く」とは？

クンダリニーがチャクラを貫通すると、チャクラの働きが活性化してくる。これを「チャクラが開く」という言葉で表現することがあるが、これがどういうことか、皆さんはおわかりだろうか。

わかりやすく言えば、チャクラの司っている異次元世界とこの現実世界とがつながるということなのだ。

それによって、わたしたちは、異次元世界からの情報（示唆）をキャッチできるようになり、この現実世界で、様々な能力として発揮することができるようになるのである。

例えば、スヴァディスターナ・チャクラを開発すれば、詩（ポエム）の才能が身に付いてくる。

これは、スヴァディスターナ・チャクラを通して、この現象界の裏側に存在している低位アストラル世界とつながり、そこに存在している情的な示唆を受けるがゆえに、詩がうまくなるのである。

❖ チャクラ開発で目覚める神秘力——人間を超えて神へ

◉——各チャクラに潜む神秘力——六神通

前章では、チャクラに秘められた現世的能力の数々について見てきたが、チャクラにはそれだけでない、非常に深遠な能力が潜んでいる。

それは、わたしたち人間の常識をはるかに超えた能力であり、まさに神が有している力と言ってもいいものだ。

これらの能力も、クンダリニーの覚醒後にチャクラが次々と開発されていく過程で、自然と身に付いてくるのである。

その代表的なものとして、「六神通」と呼ばれる六つの神通力が挙げられる。六神通とは、次の六つのことだ。

（1）神足通……空中浮揚やテレポーテーションを行なったり、高い世界へ飛んだりすることのできる能力

（2）天耳通……神々の声を聞いたり、遠くの音を聞いたりする能力
（3）他心通……他人の心を知る能力
（4）宿命通……前生を知る能力
（5）死生智……転生先を知ったり、生きながらにしていろいろな世界とつながる能力
（6）漏尽通……完全なる絶対なる神の叡智

◉――チャクラ開発によって得られる身体――幽体と五法身

六神通の中の神足通とも深い関係があるが、各チャクラごとに眠っている身体が存在している。

チャクラの開発とともに、わたしたちはこれらの身体を自由に操ることができるようになり、この三界（現象界・アストラル世界・コーザル世界。詳しくは一〇二ページのコラム参照）のどこへでも、行き来することが可能になるのである。

どのチャクラにどのような身体が眠っているのか、そして、その身体が活動する世界はどこかについては、以下のとおりである。

（1）ムーラダーラ・チャクラ＝下位の幽体

幽体とは意識体のようなものだ。アストラルの地獄界へ行って地獄界の体験をしたりするのがこれ。そのほかにアストラルの餓鬼界へも行く。

（2）スヴァディスターナ・チャクラ＝上位の幽体

アストラル世界の人間界と動物界へ行く。

（3）マニプーラ・チャクラ＝変化身

アストラル世界の天界から地獄界までを体験することができる。また、現象界にも姿を現わすことができる。修行が進んでいる人が使える身体なので、感情もあまり動かない（プラティヤハラ（制感）の修行をすると感情が静止する）。救済者が人間界へ降りるときもこの身体を使う。

（4）アナハタ・チャクラ＝法身

中位コーザル世界と下位コーザル世界で活動する。下位コーザルで無の体験をするのもこの身体。

(5) ヴィシュッダ・チャクラ＝報身（ほうしん）

上位アストラル世界で活動する。『アストラル・ヨーガ（※後述）』の修行では、この報身を使う。

(6) アージュニァー・チャクラ＝本性身（ほんしょうしん）

上位コーザル世界で活動する。光の海へ没入していくのはこの身体。『コーザル・ヨーガ（※後述）』のときも使う。

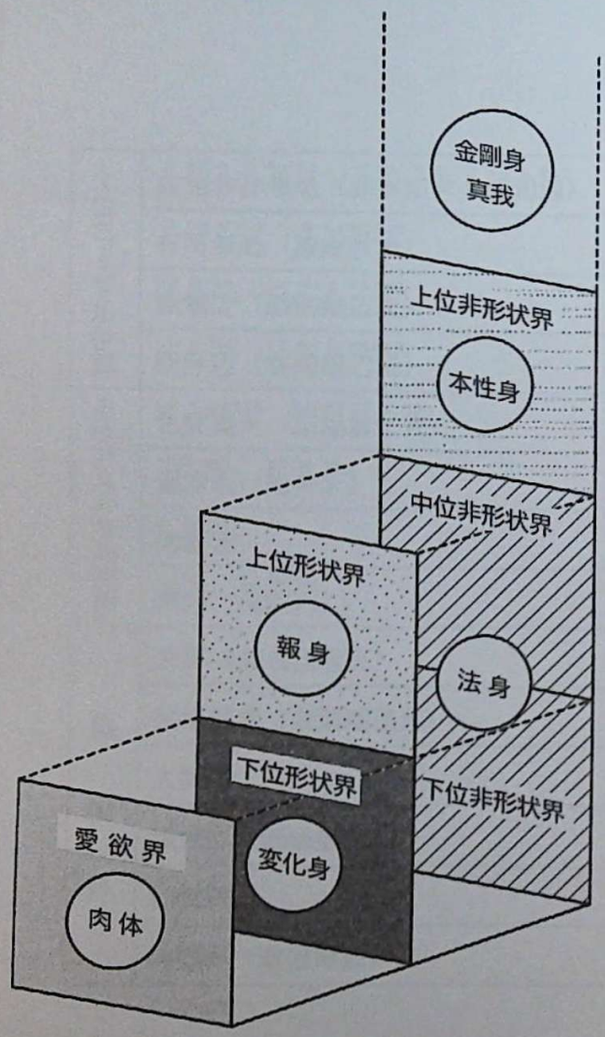
(7) サハスラーラ・チャクラ＝金剛身（こんごうしん）

金剛身イコール創造主と言ってよいだろう。すべてが思いのまま、自由自在なのである。純粋真我（しんが）[注2]の状態。あとは表現不能。

（3）から（7）までの五つの身体を、「五法身（ごほうしん）」と呼んでいる。

ちなみに、これらの身体は、そのチャクラにまでエネルギーが満ちることによって、初めて使えるようになるのである。

注2　真我：わたしたちの本質。本当の自分。サンスクリット語で「アートマン」、パーリ語で「アッタン」。仏教では「仏性」といっている。



三界と五法身の位置関係

Column

大宇宙の構造――三界とは？

この大宇宙は、「三界」と呼ばれる三つの世界から構成されている。それは、「現象界（愛欲界）」「アストラル世界（形状界）」「コーザル世界（非形状界）」の三つだ。仏教では、「欲界」「色界」「無色界」といっている。

現象界は、今現在わたしたちが生きているこの世も含まれ、熱優位の粗雑な物質でできている世界である。

ここには、地獄界（激苦地獄）・動物界・餓鬼界（低級霊域）・人間界・阿修羅界（意識堕落天）・天界（戯れ堕落天）の六つの世界が存在しており、欲六界ともいわれる。

次に、アストラル世界は、音優位の微細な物質でできた世界で、上位アストラル世界と下位アストラル世界に分かれている。

そのうちの下位アストラル世界が、現象界と重なっている。重なっているとは、通じ合っているという意味である。

コーザル世界は、光優位のデータの世界で、上位・中位・下位の三つに分かれている。

そのうちの下位コーザル世界が現象界、下位アストラル世界と重なっており、中位コーザル世界が上位アストラル世界と重なっている。上位コーザル世界となると、他のどの世界とも重なっておらず、純粋コーザル世界とも呼ばれる。上へ行くほど透明な光が強くなり、光が情報として存在している。

そして、この三界を超えたところに「マハー・ニルヴァーナ（大完全煩悩破壊界）」、

「真我独存位（※後述）」の境地が存在しているのである。

上位コーザル世界	非想非非想処（非認知非非認知境）
	有所無処（無所有境）
	識無辺（識別無辺境）
	空無辺（空間無辺境）
上位アストラル世界	色究竟天（超越童子天）
	遍浄天（総美天）
	光音天
	梵天（神聖天）
現象界	天界（戯れ堕落天）
	阿修羅界（意識堕落天）
	人間界
	餓鬼界（低級霊域）
	動物界
	地獄界（激苦地獄）

三界の各世界

◉――その他の神秘力

このほかにも、チャクラは様々な超能力を司っている。その主なものをチャクラごとに列記してみると、以下のようになる（※ただし、一部六神通と重なる表現もあるが、ご了承いただきたい）。

ちなみに、これらは『シヴァ・サンヒター』という経典等に載っているものである。もちろん、これらがすべてというわけではなく、ほかにも無数の超能力があると考えるべきだろう。

（1）ムーラダーラ・チャクラ

・ダルドリー・シッディ（カエルのごとく高く跳び上がる超能力）
・過去、現在、未来の出来事を、その原因も含めて知り尽くす
・望むことがすべて実現する
・高位の神霊を見ることができる

（2）スヴァディスターナ・チャクラ

・多くの異性に愛される

・不老長寿
・低次元の霊視、霊聴を得る
・幽体離脱をすることができるようになる

（3）マニプーラ・チャクラ

・この世において欲するものが手に入る
・死神をだまして生き延びることができる
・他人の体内に入り込むことができる
・地中に埋蔵されている宝物を透視することができる
・黄金等の貴金属を製造することができる
・過去の解脱者の姿を見ることができる
・念力を獲得できるようになる
・バルド（中間状態）へ別の身体によって移動し、そこでいろいろな経験を行なうことができるようになる

（4）アナハタ・チャクラ

【左のチャクラ】
・他心通（他人の心の中を読むことができる）
・相手の心を動かすことができる
【中央のチャクラ】
・空中浮揚
・空中歩行
・透視、遠聴
・別の身体がより高い次元へと移行し、そこで自在に欲望を満足させることができる

(5) ヴィシュッダ・チャクラ
・不老不死
・意のままに世界を支配できる
・全身が快感状態になる
・死後も肉体をミイラ化して、何千年もこの世に残しておける
・動植物と会話ができる
・天の声を聞くことができる

・宇宙の法則を理解できる
・わたしたちの身体や環境を構成しているカルマのコントロールができるようになり、自在に自分自身の状態を変化させることができるようになる

(6) アージュニァー・チャクラ
・自分の内側にいる守護神と外側にいる守護神を見ることができる
・微細物質（原子など）を見ることができる
・今までに付いた超能力がさらに磨かれていく
・「第三の目」が開発される
・いかなる光の空間へも移動できるようになる

(7) サハスラーラ・チャクラ
・身体を極めて小さく（大きく）させる
・身体を軽く（重く）させる
・どこへでも好きなところへ行ける
・どんな望みでも実現できる

・どんなものでもつくり出せる
・万物を意のままに動かす
・テレパシーや予言能力等の様々な超能力を身に付けることができる
・この肉体から離脱し、解脱することができるようになる

ありとあらゆる能力が開発される――そう感じられるかもしれない。しかしこれらは、実は、わたしたちがもともと持っていた能力なのだ。

本来、わたしたちはこのような能力をすべて備えた存在だった。ところが、いつしかその能力を一つずつ忘れていったのである。

クンダリニーを覚醒させ、チャクラを開発していくということは、忘却していたわたしたちの力を、一つ一つ甦らせていくステップにほかならない。

その能力開発の最終地点に、至高の目標「解脱」が待っているのである。

【体験談】

驚くべきチャクラの力――夢のような能力が現実に！

1 異次元の身体で様々な世界を経験

変化身で道場内を空中浮揚

二〇〇四年から六年にかけて入った長期修行での体験です。

夢の中で、身体が空中に浮かぶことができるようになった少しあと、究竟（※瞑想法の一つ）の時間に、座っていて深い意識に入ったような状態になりました。あるときフッと目が覚めたようになり、その瞬間、体が座法を組んだまま右斜め上に浮いているのに気付きました。

わたしは、「こんなに高く飛んでいるんだから、ダルドリーじゃなくて空中浮揚ができるようになったんだ！」と思いました。

そして、わたしの身体は天井に頭が着くぐらいまで上昇して、その後、体の向きを変えて、道場の入り口の方を向いて、ドアの横の音響機材がある辺りに向かってゆっくりと空中を降りていきました。

（Yさん　出家者）

「どうしよう、ぶつからないように降りなきゃ……」と思った瞬間、肉体に戻っていました。最初、肉体が本当に浮いていると思っていましたが、変化身だったようです。

チベットの聖者ミラレーパが座法を組んだまま空中を飛んだといいますが、その感覚がわかりました。わたしにとっては驚きの体験でした。

十〜二十キロ先の会話を変化身でキャッチ

（Kさん　出家者）

一九九四年のことです。ワークをしていると、突然変化身がスッと肉体を離れ、別の世界に飛んでいきました。そして、たどり着いた所で話し声が聞こえました。

このような現象は、今まで何回か経験したことがあるのですが、そのときに飛んだ先は、ワーク場所から十〜二十キロも離れた場所にある別の教団施設でした。

そこのキッチンのところで、AさんとBさんの二人のサマナ（※出家修行者）が会話をしていました。その会話の内容の一部をわたしは聞いて、その後肉体に戻ってきました。

その日の夜に全体ミーティングがあり、当然、そこの施設にいたサマナも全員参加しました。その場で当の二人に順番に確認してみると、会話の内容がぴったり一致していたのです。

何時何分ごろに、キッチンで二人っきりでしゃべっていて、Aさんがこう言うとBさんはこういうふうに言って……という表情ややり取りまでを、正確に言い当てたのでした。

当人たちにとっては、あまり人に聴かれたくない話だったようで、二人ともびっくりしていたということがあります。

面談中の師の様子を変化身で観察

（インドラーニ師　成就者）

一九九一年ごろのことです。修行中にC師のことが気になり出しました。気が付くとわたしは、その師がいる道場に立っていました。

そこは事務所みたいな所で、C師と一人の女性サマナが話をしているのが見えました。女性サマナはわたしから見たら後ろ姿だったので、だれかはわかりませんでしたが、髪の長い人でした。

そこで、そのC師は——供養（※食事）中だったのかもしれませんが——海苔（のり）を取り出し、それを供養しながらサマナの話に耳を傾けていました（当時の供物には海苔がありました）。わたしは「話をしているんだな」と思い、この場から自分の部屋に戻りました。

翌朝、早速C師に「昨夜、海苔を食べながら、だれかと話してたでしょう?」と聞きました。C師は、唐突に海苔のことを言われたので絶句して、言葉が出ないようでした。もう一度聞くと、「A

さん（髪が長い女性）が揺れていたので話をしていたんだけど、なんで海苔を食べていたのがわかったの？来たの？」と言いました。「そう、見に行ったからね」とわたし。

自分の変化身の体験を考えると、いつどこでだれに見られているかわからない。そして、決してグルの目は節穴ではないのだなと、改めて考えさせられました。

変化身で異次元世界へ

（Sさん　出家者）

初めて道場を訪れた、その夜のこと。眠っていたら身体の固定が始まり、意識が体から抜けて、黒い筒のようなところを上昇していきました。

眼前に白銀の海面のようなものが見えてきて、それに向かって上昇していきましたが、帰れなくなるのが不安でしたので、そのまま引き返して自分の肉体に戻ってきました。

その話を聞いたサマナの人から、「光が綺麗だったら、飛び込んでみてください」とアドバイスを頂きました。

その晩、寝ているときに、また体の固定が始まり、意識がおなかから抜けました。今度は赤紫色の光線が降ってきたので、「まあ、綺麗かな。行ってみようかな」と思い、光線が降ってくるところを目掛けて上昇していったら、異次元の世界に出ました。そこでは、わたしはまあまあ美人な女性

で、宇宙服のようなものを着ていました。

後で『生死を超える』を読んで、最初がバルドの体験で、その次は変化身の体験だったことがわかりました。

スシュムナー管を上昇し、光だけの世界へ

（Mさん　出家者）

わたしは変化身に関して、少し変わった体験をしたことがあります。

修行に入っていたある日の究竟の瞑想でのこと。いつものように瞑想に入ってしばらくすると、深い意識状態になり、わたしの体はしびれて固定されました。

そんな状態で、最初、半分夢のようなヴィジョンを見ていました。最初はどこか空間の中を疾走しているようなヴィジョンだったのですが、徐々に瞑想が進むにつれて、空間が上下に延びるトンネルのようなものに変わり、わたしは何か大きな球体のような物に乗っていました。

そしてスピード感はそのままに、わたしはその丸い大きな球体の上に乗った状態で、そのトンネルの中を上に向かって、ものすごい勢いで上昇していました。

しばらくすると、その大きな球体が心滴（しんてき）（※意識のこと）で、自分がいる場所は、自分の身体の中にある三つの霊的な気道のうちの一つ、スシュムナー管（中央管）であることが理解できてきま

した。

要するにわたしは、変化身の身体に意識を移し替え、心滴に乗り、上昇の風に吹き上げられて、スシュムナー管の中をものすごい勢いで上昇していたのでした。

そして、アナハタ・チャクラを通過し、ヴィシュッダ・チャクラを通過したころから、だんだんと頭上にオレンジ色（黄金色?）の大きな太陽が見え出してきました。

そして、さらに上昇し続け、アージュニァー・チャクラを通過し、いよいよ目の前に巨大な太陽が迫ったとき、わたしはそのまま勢いよく「ドーン！」と、巨大な太陽の中に突っ込んでいったのでした。

気が付くと、そこは光だけの世界でした。

しばらく光の中に没入し、その状態を味わっていたのですが、ふとあることに気が付きました。

それは、その光の世界は時間が完全に止まっているということでした。

「光だけの世界」「時間の止まった世界」――非常に不思議な世界であり、また、それまでは変化身の体験といえば、体外に出る体験しか経験がなかった自分にとって、非常に印象深い体験でした。

睡眠捨断（しゃだん）の修行で「光音天」の至福を経験

ヴァジラハーサ師　成就者

かなり前の体験ですが、わたしはある時期、できるだけ寝ない訓練をしていました。というのも、寝ないでいると変化身が抜け出しやすくなり、また、それによって高い世界を経験しやすくなると聞いたからです。

当時はまだ意志の力が弱くて、寝ないというのはなかなか難しかったのですが、それでもできるだけ寝ないように頑張っていました。

すると、ある瞬間、アストラルに入った際に、非常に高い世界を経験することができたのです。

肉体から半透明な身体がスッと抜け、行き着いたところは、光に満ちたすごく明るい世界でした。

わたしの身体も光っていて、空中を飛んでいました。

その明るい空間の中に、ひときわ光の強い粒のようなものが無数に浮遊していました。それが体にピタッとくっ付くと、その瞬間に、まるで爆発が起こったかのような勢いで、心の底からものすごい歓喜・至福が生じました。しかもその歓喜は、自分の中でとどまるのではなく、自分を中心としてその世界全体に広がっていくのです。

このときは、あまりにも至福が強すぎて目が覚めてしまったのですが、その後も至福の状態はずっ

と続いていて、しばらく放心状態でした。
この体験があったのち、経典で確認して、この世界が光音天なんだということがわかりました。

上位アストラルの超越童子天までを経験

アヴェッチャバサーダ
ヴァンティー師　成就者

一九九四年の成就修行のときの体験です。
瞑想をしていると、まず地元素が崩壊し、続いて水元素、火元素と崩壊していって、呼吸が停止し（風元素の崩壊）、心臓もほとんど止まっている状態になりました。脈もなく、心臓に手を当てても動いていません。
このときは既に、わたしの意識は化身に移っていたようです。
その後、わたしは雲の層（天界）を超えて、上位アストラルに入っていきました。幾何学模様や光のうねりの世界を通過し、善現天、そして超越童子天だと思える心の状態を経験しました。
そこでは、綺麗も汚いもないとか、善悪はないんだとか、時間はないんだとかいうことが、心からわき出てくるような感じでした。これまでの流れは、まさに経典どおりの体験でした。
すると、まぶしい透明光が上から差してきて、グルが頭上に現われました。

そこで「今の自分のレベルでできる救済って何ですか?」と聞くと、「一人でも多くの人にグルとの縁を付けることだ」という答えが即、内側から聞こえてきました。ちょうど天耳通のような体験でした。
あまりに至福の状態でしたので「もうこのまま帰りたくない」と思いましたが、「ここに留まってしまってはいけない。救済のお手伝いをしなければ」と思い直しました。すると、現象界に意識が帰ってきたのでした。
このような体験をさせていただいて、グルの素晴らしさがよくわかり、心から称賛の念が込み上げてきました。
また、この人間界の上には確実に高い世界があり、そこはこの世と比べものにならないほどの平安で至福の状態で、この世は執着すべき対象ではなく、すべてはマーヤ（幻影）なんだということを実感しました。
そのほかにも、呼吸をしないことがこんなにも楽だというのを実感しました。呼吸が煩悩だということは経典にも書かれていますが、実際に体験して初めて、その意味合いを理解することができました。
瞑想が終わったあとも、長い間、喜や軽安（静寂）（※後述）の状態が続いていました。

2 内的五感で異次元世界の情報をキャッチ

異次元の音楽が聞こえる

ある集中修行に入ったときのことですが、ビバリーダ・カラニーを一時間行なって、シャヴァ・アーサナを取ると、いきなり、非常に鮮明に、聞いたことのない壮大な日本的な音楽が聞こえてきました。

こんなところで、音楽など聞こえるはずがないので、驚いて、目を開けて周りを見ようとしましたが、目を開けると何も聞こえません。

目をつぶると、また先程の曲がはっきり聞こえてきます。

次の日も、修行の最後に、ビバリーダ・カラニーを一時間行なって、シャヴァ・アーサナを取ると、今度は、昨日と少し違った、音が高くて単調な綺麗な日本的な音楽が聞こえてきました。

このときも、はっきり聞こえてくる異次元の音楽に驚いて、辺りを見回して、どこで鳴っているか、何度も確認してしまいました。

以前、天才モーツァルトが、子供のときに、「音楽が僕の中で鳴っていて、僕を寝かせてくれないんです」と、周りの人に言って困らせたと聞きましたが、過去の偉人たちの体験も、きっと、クンダリニーの覚醒によってもたらされた経典どおりの体験なのだと、ALEPHの教えと修行体系の素晴らしさに感銘を受けました。

（Tさん　出家者）

相手の心が声となって聞こえる

ALEPHでは、日々の奉仕活動を行なっているだけでも、いろいろな能力が開発されていくようです。わたしの場合も、修行中だけでなく、奉仕活動であるワーク中にも、いろいろな精神的・霊的な体験をします。

これは、ある道場でワークをしていたときの体験です。

会員さんが、あるものを計算していて、わたしにその数字を告げたので、わたしがその数字を間違えないように復唱してから、その用をするために席を立ち去りました。

そして、すぐ戻ってくると、その会員さんと隣にいたサマナが、二人で顔を合わせて非常に驚いたまま立っていました。

それで、一体何があったのか聞いてみると、その会員さんは、まだ数えた数字を一言も言っていないのに、いきなりわたしが「いくらいくらですね」とその数字を言って、対応し始めたので、隣

で見ていたサマナと一緒に驚いたということでした。
それを聞いたわたしも驚きました。なぜならわたしには、その会員さんが心の中で数えた数字が、はっきりと声として聞こえてきたからです。
他の道場に行ったときも、目をつぶっただけで、上長の師の方の声が、四方から聞こえてくるということがありました。

修行が進むにつれ、超常的な体験が次々と

サマナになって極厳修行に入っていると、ヴィシュッダ・チャクラが開発されてきたのだと思いますが、耳を澄ますといろいろと声が聞こえてきました。
例えば「トイレに行きたい」と聞こえてくると、前方で修行している人がトイレに行ったり、「サットヴァ・レモン（※飲み物）が飲みたい」と聞こえてくると、他のサマナがサットヴァ・レモンを飲み出したり……。
さらに修行を続けると、人の思念が物体として感じられるようになりました。他の人がわたしの方を屈折したような目で見ると、ズキューンとピストルで撃たれたかような感覚になり――その人が卑屈を修習していたのかもしれませんが――卑屈の感情が生起しました。

（Dさん　出家者）

また、別の人がわたしの方をにらみつけるような目で見ると、同じようにズキューンと何かが飛んできて、頭の中がバーッと怒りで満たされました。
さらに修行を続けていると、アージュニャー・チャクラが開発されたのでしょうか、人の思念が光の粒子として見えるようになりました。空間を光の粒子が飛び回っていたのです。
以前、ステージの高い方が、「会員さんたちがグルに集中すると、想念が光の線となって、グルに向かって飛んでいく」ということをおっしゃっていましたが、似たような経験かもしれません。「すべては心の現われである」といいますが、このようにヴィジュアル的に見えると、さらに理解が深まります。
これらの経験から、わたしたちは外的情報に左右されているということがよくわかり、不動の心を培わなければならないと感じました。

瞑想で駐車違反に問われたことを知る

ウッジャヤ師　成就者

ある地方へ出張したときのことです。その出張の目的は、会員の方の自宅をお借りして真理の流布をする「アットホーム真理」という催しでした。

そこは道場から離れている場所で、しかも道が渋滞していたため、「皆さんをお待たせするのは申し訳ない」と思いながら車を走らせていました。

やっと目的の場所に着いたのはいいのですが、今度はなかなか駐車場が見つかりません。駐車する場所を探しているうちに時間はどんどん経過していきます。仕方なく、他の車が駐車してあったところに、わたしも止めました。

アットホーム真理は順調に経過していき、少し時間が空いたので、わたしは座法を組んで瞑想をしました。すると、目の前に、先程自分が駐車した車がヴィジョンとして現われました。

何だろうとそのヴィジョンを見ていると、警官がわたしの車のところで、しきりに周りの人に運転手はいないかと聞いているのです。そして、その後、例の駐車違反のラベルを取り付けているではありませんか。

わたしは、他の車も何台も同じように駐車していたはずだからと思って、瞑想から覚めてもこのヴィジョンを否定していました。

アットホーム真理が終わり、さっきのヴィジョンのことなどすっかり忘れて車のところに行くと、なんと、先程のヴィジョンどおり、わたしの車に違反のラベルが付いていたのです。近所の人の話だと、警官はしきりに運転手を探していたとのことでした。

そうだったのです。瞑想中に、わたしは、自分のいた場所からは見えるはずのない出来事を見ていたのです。

瞑想から覚めたときに、「ヴィジョンを信じて対応していれば、駐車違反に問われることはなかったのに」と思っても、もうあとの祭りでしたが、修行によって遠隔透視の能力が付いたことを知ることができた貴重な体験でした。

未来ヴィジョンが見える

ヴィサーカー師　成就者

修行をしていくと、時々未来ヴィジョンを見る、という経験が生じるようになりました。

道場で以前使っていた車は、スピードも出る上、軽油車で燃費もいいということで、とても重宝していました。でも、初めにこの車を見たときに、直感で〝一年〟と思いました。

というのも、そのとき、一年後にこの車が壊れるヴィジョンを見たからです。

そのときの運転手がだれなのか、詳しいことはよくわかりませんでしたが、車が一回スピンして壊れたことと、その原因が折り畳み式の携帯電話であることだけはわかりました。

ですから、わたしは出家者に、「運転中に折り畳み式の携帯は使わないように」と注意していました。

けれども、一年後、案の定、運転する人が折り畳み式の携帯電話を使って、一回スピンして、廃車になってしまったのです。寿命が一年という直感も、残念ながら当たってしまいました。

また、わたしは修行中にこんなヴィジョンも見ました。それは、飛行機がビルに突っ込んでいって、そのあとビルが崩れていくというものです。

ただ、不思議なことに音が何もしませんでした。そのときは、なぜこんなものを見るのだろうと思っていました。

その数日後のこと——わたしたちは、修行中にニュースを見るといったことはないのですが、そのときは——教団で編集した特別ビデオが流されました。

その内容が、世界を震撼させた「アメリカ同時多発テロ事件」のニュースだったのです。ニューヨークの貿易センタービルの爆発の映像は、まさにヴィジョンで見たとおりでした。

ところが、そのビデオを上映する際に、技術的なトラブルがあって、テレビから音声が出なかったのです。つまり、音が出ないビデオを見ることになるということで、わたしが見たヴィジョンどおりになったのでした。

3　自分の過去世を垣間見る

熱のクンダリニーから宿命通の体験へ

入会して二年目ぐらいのころのことです。道場で集中的に修行をしていると、熱の体験が頻繁に起こりました。熱のクンダリニーの覚醒だと思います。

わたしの場合は、体の中に熱い蒸気のようなものが生じてきて、肉体と同じ幅で、腰の辺りから胸の辺りまで、熱が上昇します。最近では、尾てい骨からアナハタ・チャクラまで、熱が押し上げていくような感じで上がっていきます。

その当時、わたしは、グルとの縁について知りたいと強く思っていました。そこで、グルと縁のある過去世を見ることができるように懇願して、深夜セミナーに参加させていただきました。

セミナーが終わり、道場でシャヴァ・アーサナを取っているときのことです。何かヴィジョンが見えてきたので集中していると、意識が引っ張られるような感じで、その中に入っていきました。

そこは阿修羅の世界だと思いました。グルがいらっしゃいます。グルは多くの弟子を引き連れて、街を歩いていらっしゃいました。グルはわたしに法則を説いてくださいました。

（福岡　Aさん　女性　三十代）

その生のわたしは、ある失敗をしたようなのですが、このとき、グルの説かれる教えによって救われたのです。これがグルとの縁の始まりだったのだと、強く確信しています。
また、このころから、たくさんの過去世と思われるヴィジョンや夢を見るようになりました。

イニシエーションと修行で生じた神々の世界の体験

（Vさん　出家者）

ALEPHに入会して以来、修行によって、いろいろな神々の世界を体験するようになりました。
仏教では、この欲六界の最上位の天界と、その上のアストラル世界やコーザル世界に、神々の世界があると説いているのですが、これから述べるのは、上位アストラル世界の体験です。
あるとき、教団で大規模なイニシエーションが行なわれました。それを受けたとき、わたしは一気に時を超え、はるか彼方の昔の自分の過去世に飛んでいきました。それは何カルパという昔であり、その生ではわたしは、教団の主宰神であるシヴァ大神のいらっしゃる世界にいました。
その世界には、シヴァ大神の神殿があるのですが、たくさんの神々がマンダラのようにその神殿を取り囲んでいらっしゃり、その素晴らしさや美しさは、残念ながら人間界の言語や観念で表現できるものではありません。
イニシエーション中、わたしは、あまりのすごさに圧倒されながら、その様子を見ていましたが、

そこにいる神々のうちのある一人の神に目が留まりました。
しばらくすると、その神はまさに過去世の自分自身であるという記憶と自覚が、強くよみがえってきたのです。
そして、そこに自然と焦点が集中していき、ふと気が付くと、自分はいつの間にかその神と同化しており、神の内側の情報が、自然にわたしにも伝わってきました。
それによると、その神（過去世の自分）は、はるか彼方の昔のカルパから何生も何生も転生を繰り返しては、この世界に生まれ変わり、周りの多くの神々の一群と共に、シヴァ大神の救済活動に尽力しているのだということを、その神の輪廻の記憶から知ることができたのでした。
イニシエーションの後、グルと面談があったのですが、グルはわたしがその経験を思い出したことを大変喜ばれ、特別に時間を割いて、長いことわたしの体験を聞いてくださり、また、わたしの質問にも一つ一つ丁寧（ていねい）に答えてくださったのです。
そして、わたしが過去世においてその世界にいたこと、わたしの見たものはすべて正しいヴィジョンであるということを、改めてグルから教えていただいたのでした。
その後は、修行に入ると、以前であれば、体験するのは欲界の天界の体験だったのが、イニシエーションのときの世界とつながるようになり、そのたびに素晴らしい体験をするようになりました。
ある修行に入っていたときは、わたしは、自分の煩悩の引っ掛かりについて、ひたすら修行場の

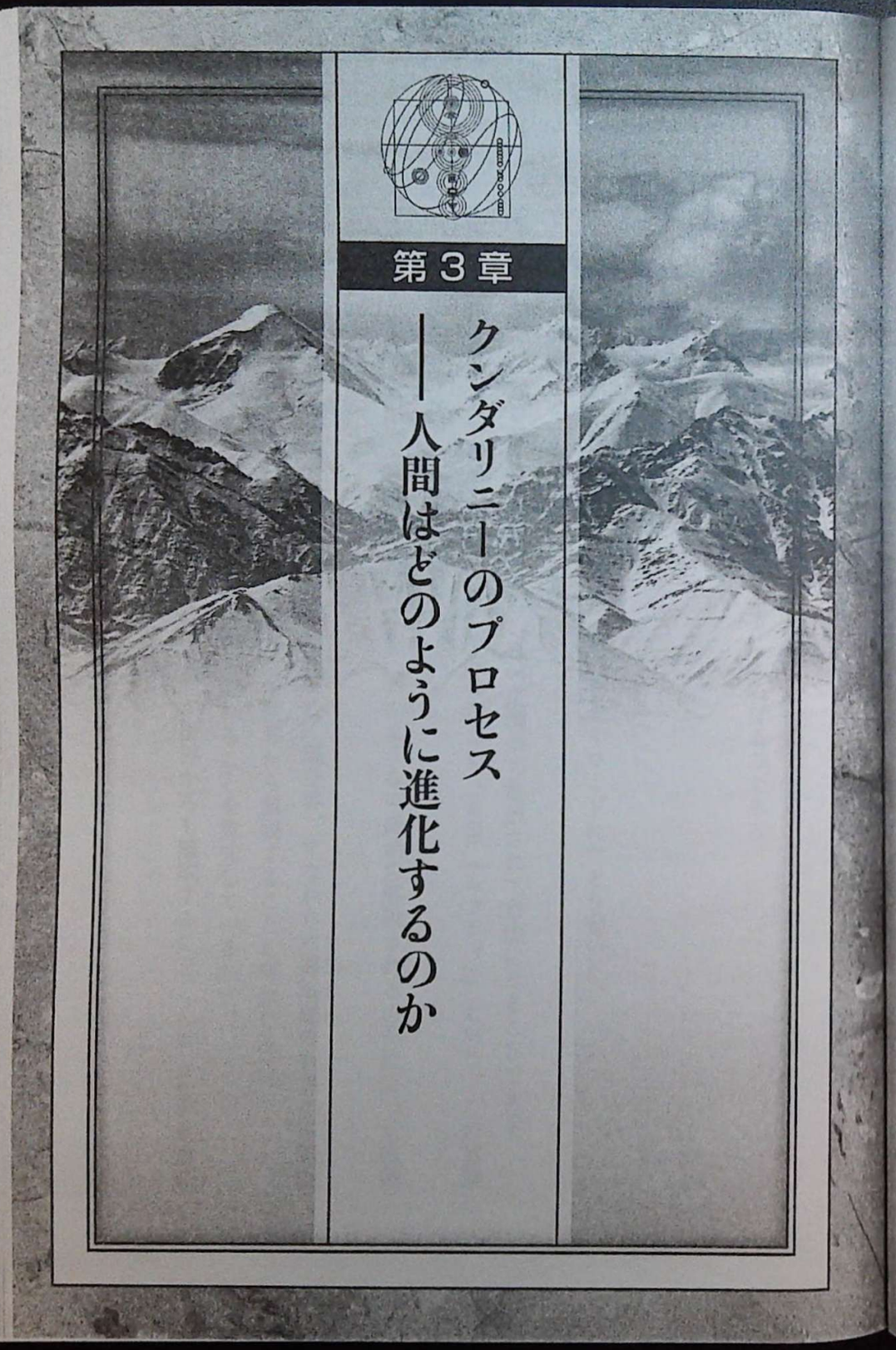
中を歩き続けながら思索していたのですが、ある瞬間、ズバッとその煩悩が切れ、自分の内側のアストラルが「バチッ」と変わり、その途端、道場の空間が一気にまばゆい光に輝き出し、空間いっぱいに上位アストラル世界の神々がたくさん出現し、光と神々に満たされるという体験をしました。

その様子は、そこにいる人々や部屋の空間も見えていながら、それと重なって、道場全体が光り輝き、たくさんの神々が、視界いっぱいにマンダラのように現われるというもので、まさにミラレーパやマルパの逸話の中で、時折記述されている様相を彷彿（ほうふつ）とさせるものでした。

また別のときは――半年間の修行の五カ月目に入ったころには――立位礼拝をスタートして二、三回投地すれば、即イニシエーションのときの、上位アストラルの神々の世界に没入する状態になっていました。

こういった体験は、一般には昔の聖者について書かれた書物の中や、逸話でしか聞くことのないものです。しかし、ＡＬＥＰＨに入会して修行をすることによって、以前は神秘体験自体したことのない、わたしのような人間でも、どんどん霊的な進化をし、実際に様々な経験を重ねていっているのです。

道を求めている人は、わざわざインドやチベットに行く必要はありません。この教団には、わたしがしたような体験はもちろん、さらに高い解脱や悟りの体験をしている人も多いのですから。



第３章

クンダリニーのプロセス
――人間はどのように進化するのか